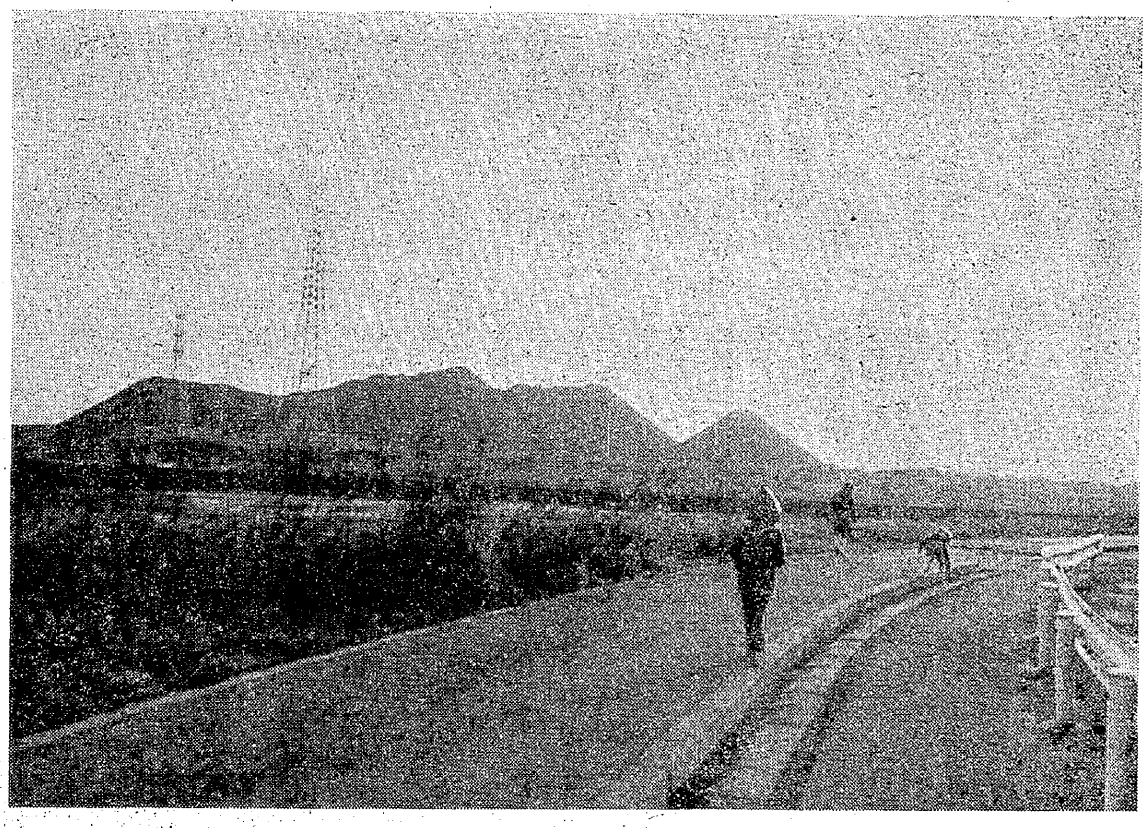


学校から帰り道か。海辺を歩く子どもの後ろから、春風も流れていく。
明日は、どんな草花が道を飾るか。

## 随筆

# 春の足音

三川指導部　K・H生

長かった寒さも、日一日とゆるみ始めてきた。

じっと土の中で息をひそめていたすべての生物が、いっせいに動き出した。樹々の芽も日に日にふくらみ、田んぼのあぜ道のそこかしこで、すいかんぼが座を作りはじめた。

四、五寸ほどに伸びた麦の中を雲雀が、頭を見えかくれさせながら、ぴょこぴょこ走る。

湿った田んぼのにおいにも、早春の香がほのかに漂よい、空に浮く淡雲にも春のきざしがうかがわれて、愉しさが湧いてくる。

延命公園の樹々の色が浅黄勝ちに変化してゆくのが、遠う自叢がだんだん盛り上がり、横へ広がってゆく。

野に、田んぼに、あぜ道に満ち溢れてゆく若草のにおい。四季のなかでもっともはつらつと春たけなわである。

そうら、耳をすませてごらんなさい。「コットン、コットン、コットントン」。

地球の鼓動が聞こえます。春の足音が聞こえてきます。

×

文は、三川指導部十六分会新聞〝いのち〟（三月一日発行第二八七号）から紹介しました。筆者は方田作業所に勤務。

にもよく判る。庭先の桃の小枝も青味が増し、瑞々しい蕾がふくらんできた。

殺風景で何の変哲もなかった刈田の中に萌え出した亜華草の地球の命を感じさせてくれる春。諸々の草木は精いっぱいに花を掲げて、この世の春をおう歌する。大きな花には大きな蜂が舞いきて蜜を吸い、小さな花には小さな虫が蜜を求めて訪ずれ、花芯にもぐりこんでは花粉にまみれてはい出し、飛び立ってゆく。昆虫の世界は、すでに

## 短歌

# ささらぎの雪

三川指導部　町　佳郎

暖とりて職場の隅に書（ふみ）読めばまたひとしきり雪の降りくる
吾娘（あこ）ふたり風邪に臥しいるささらぎの夕べ静かに雪降り初めぬ
冷え寒（しる）き朝（あした）の庭に来鳴き遊ぶもちの木巡りつがいの鳥は
ささらぎの夕べ不動尊（ふどう）の道登りゆく吾娘ふたりあとさきになりつつ
ささらぎをひそかに生くる庭隅の木瓜のつぼみいまだおさなく
暖かき陽のさす窓辺に同僚の週刊誌読めりときに笑みつつ
一日の仕事も無事に終りたりストーブを消す同僚（とも）のひとりは
号外のビラ受け取りて労協福利の逆提案にいきどおり湧く

×

本紙二月十六日発行の、町さん訂正しておわび致します。「事」を「争」と誤まりました。の作品の七首目の、初めの文字

——編集部

# 国際婦人デー、福岡で集会

第二十六回国際婦人デー福岡県集会が、三月九日福岡市の大手門会館で、「明日から、本日から、どう進めばよいか考え、実行に移す集会にしましょう」、という開会のことばで開かれました。

また実行委員長の、「一九〇八年にアメリカの婦人のデモンストレーションで始まった、この意義ある国際婦人デーも七十周年を迎え、今年は国連の行動計画の中間年でもあり、私達はこの婦人デーを単なる祭りに終らせることなくその意義をいま一度問いなおし、行動に参加しよう」との力強い挨拶のあと、「国際婦人デーの意義と婦人の課題」という、関西婦人労働問題研究会代表＝山本まき子氏の記念講演がありました。内容は短時間では消化しきれないほど有意義なものでした。

国際婦人デーとは、世界の婦人達が連帯して、民族の独立、自由と平和、婦人の解放をめざし立ちあがる日です。しかし、わが国の政府・自民党は、国際婦人デーを契機に、婦人の労働権や母性と育児など、社会的責任を果たすように要求する声や、男女平等の主張が高まってきたことに対し、平等をタテに労働基準法中の「母性保護」の切り捨てをうち出したり、年金の支給開始年齢や保険料率では男女平等をうたい、母性や育児の問題に対しては個人の責任にすりかえ、政府の経済政策の失敗を男女の役割の分業化にもとずく再編成でかわそうとしています。

なかでも自民党が強力におし出してきた〝家庭基盤充実要綱〟は「女は家庭へ」と、古い家族主義への郷愁を誘い、社会保障・福祉対策の責任を婦人に背負わせ、その労働権を奪い、婦人の低賃金を位置づけることを画策しています。

今こそ婦人は政治への関心をより高め、国際婦人デーの意義を問い直し、平和と民主主義、婦人の解放を実現するために頑張りましょう。とくに来たるべき参議院議員選挙には、婦人の持てる力を結集し、推せん候補の全員を当選させたいものです。

# 婦人解放めざそう

## 政府・自民党の反動攻撃許すまい

三川指導部　蓮尾文子

## 筋肉に精気を

### 春と体づくり

春風は〝スポーツの空気〟。自分のからだの〝シーズン・イン〟。

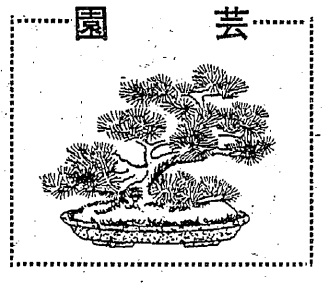
昼休みには戸外に出て、柔軟体操を。からだを横に曲げたり、前後に大きくまわしたり、足の曲げ伸ばし、肩や首の前回し後回し、手首足首の運動にこころがけ、筋肉に精気をよみがえらせよう。小刻みなスキップを百メートルぐらい、ゆっくり大きなスキップを五十メートルぐらい。

持久性をはかる踏台昇降運動をベンチを利用してやるとか、敏しょう性をはかる反復横とびを飛んだ足に重心をしっかり乗せて、ゆっくり大きく。

仲間がいれば、腕相撲（七分の力で左右各二回）、腕引き合戦（七分の力で左右各三回）、倒立（相手は足を支えてあげる）、倒立腕立てふせ（相手は足首を持ってあげる）、背負い競争（相手を背負って走る）など、いろいろ工夫して腕力や足腰を強化しよう。

（文は「スポーツの広場」広畑成志編集長）【連合】

## 芸園



# いよいよきた春

## 大いにアイデア生かそう

藤の植え替えは今が最適。用土は、赤玉土六に砂四の割合で、根は、長いものは丸めて植えこむ。

山藤の山取りもできます。根の切口をきれいに切ります。

海どう、ボケなどの取り木も今が季節。取り木しようとする部分をナイフで切りこみ、下の方に五～七センチメートルばかり、甘皮も残らずけずり取り、水ゴケを巻きつける。その上からビニールを水がはいりこまないように巻きつける。そうしておけば、約二カ月ほどで発根するが、十月ごろ切りはなすこと。根がやわらかいので要注意。

×

さて目先を変えて、春の野山を歩いてみませんか。名も知らぬ草や花などが目を楽しませてくれます。

私はよく、そんな小さな草などを、やっとはいるくらいの鉢に、山ゴケなどを使って軽く植えこみテーブルの上などに置いて楽しんでいます。

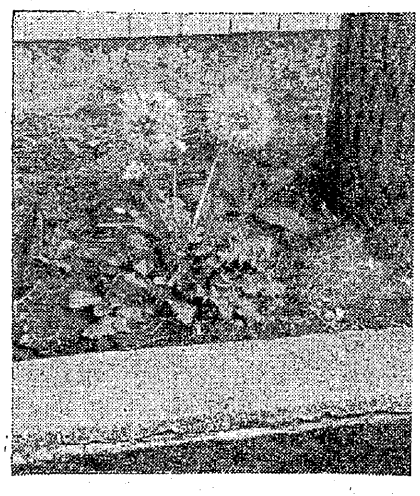
野のスミレなど花種も多く、またやがてツユ草や母子草などいろんな草花が楽しめます。

弱ったら次々に植え替えて食卓などに置いて眺めると、晩酌の味もまたひとしおです。

パセリや山椒など、角鉢にでもタネをまけば芽を出し、観賞するうえに食用としても楽しめます。まず、角鉢に荒砂を敷き、その上に中くらいの砂を入れてタネをまき、タネがかくれるくらいに砂をかぶせ、水を与えておいて半日陰に置けば、二週間ほどで芽を出します。

いくらか大きくなったら食卓の上に置き、葉を摘んでは味噌汁にでも入れて食べるのも一興です。そのうち、庭にでも移してやります。皆さん、こうしたアイデアを大いに生かしましょう。

この項三川＝田上　勇・記



街の歩道脇の花壇に、ポッカリ浮いていたタンポポの坊主。小鉢に植えたらどんなだろう。

## 投稿

# この灯を消すまい

本号でもなく大変です。でもこの欄だけはなんとしてでも、主婦の皆さんのお力添えによって、つづけていきたいものです。この欄に、ただ一度寄稿したことが、将来どれほど値うちのある思い出となることか。みんなの力で〝姿見〟の灯びをぜひ守りつづけていきましょう。

——編集部

〝姿見〟欄への投稿がございませんでした。まるで灯びの消えた、さびしい思いの残るページになってしまったことが残念です。

書くということは、いうま